# 第 23 回　ヒューマンスキルについて

ヒトが社会の中で組織に身を置いて生活していくための基本能力は、最小限自分の生活を維持するために身につけた技術的能力（テクニカルスキル）であり、次いで、他人とつき合いながら住み分けることができるようにする対人関係能力（ヒューマンスキル）、それらの上にさらに自分自身や組織の安定や発展のために役立つ高度な考え方ができる能力（コンセプチュアルスキル）などの三要素が必要とされる。これらの要件は、三角形の底辺にテクニカルスキルがあり、中心にヒューマンスキルをおき、頂点にコンセプチュアルスキルがあるというような三角形の図を思い浮かべるとよく理解できる。三要件のなかでは、良好な対人関係を構築する能力であるヒューマンスキルという人間的能力はほかの二つの能力要件とはかなり異なった領域にあると思われる。気質や性格といったような人間としての基本的な要素を多分に含むヒューマンスキルを所属する組織や社会に適合するように完成させるには、ごくわずかな先天的要素に加えて個々の人間性を向上させるための持続的な努力が必要である。

ところで、ヒトの気質は先天的な感情面での個性と解され、これまで心理学や精神病理学分野の著名な学者による研究成果が発表されてきた。気質に関しては、古代ローマのヒポクラテス医学を継承し、近世まで無謬の存在といわれたギリシャの医学者ガレノス（129 年頃-200 年頃）による 4 種型分類がよく知られ、現代まで伝わっている。それらは、多血質（楽天的・活動的で、気が移りやすい気質）、粘液質（冷静で、不活発であるが、粘り強い気質）、胆汁質（情動的反応が速くて強いのを特質とする気質）、憂鬱質（些細なことでも誇大に考えて取り越し苦労をし、人を信用せず生気に乏しく暗い性質）というものである。また、20 世紀前半に活躍した精神病理学者クレッチマー（1888 年-1964 年）は、気質と体型から分類し、細長体型には分裂気質（非社交的、気づかないところと気づくところ両方がでる）が多く、精神分裂病発症に関連し、肥満型には循環気質（社交的な時と静かな時が交互に出る）が多く、躁鬱病につながりやすく、闘士体型の人間には粘液気質（几帳面、やることは凝る）を有している者が多く、てんかん発症に関連する、などというような体型、気質、精神病の間に一定の関連性があると考えた。この場合、医学的に気質とは、性格の諸側面のうち、遺伝的な関連や精神病の病前性格であることが証明され、生物学的規制が強いと考えられた部分を意味している（医学書院,医学大辞典,2003 年）。一方、性格については、個人のなかにあって、その人の独特な行動と思考を規定するものであり、個人が自分のおかれた状況のなかでどう行動するかという予測を可能にするものである。性格に似ている言葉に人格があるが、これは先天的素因に生後の体験や環境の影響による社会的あるいは論理的内容が含まれており、性格よりも広い概念であるとされる。ヒューマンスキルをレベルアップすることは人格形成のための努力であることも意味する。

正常な気質に遺伝的素因が関与しているかどうかは、ガレノスの分類やほかの分類結果にしても、それらの検証過程が不明なため、仮定の域を出ない。確かに気質は、容貌や体型などと同様に、親兄弟で類似していることを経験するし、認知症のひとつであるアルツハイマー病などの脳疾患のなかには加齢因子のほかに遺伝的素因が関係しているものがある。ヒトの「こころ」のもとが能にあると仮定すれば、脳の構造とともに機能の一部としての正常な気質にも遺伝的素因が関係していることが容易に想像される。ヒトのゲノムの全塩基配列解読が完了している今日、脳機能の一部としての気質を分類するような科学的証拠に基づいた研究が将来どこかで始められるかもしれない。一方、血液型と気質や性格との関連性を求めた研究（研究といえるかどうか不明だが）は歴史が長く、これまでしばしばマスコミを賑わせている。抗原活性を有する複合糖質である多くの血液型物質は、核内にある染色体上の遺伝子によって支配され、メンデルの法則によって遺伝するが、なかでも ABO 式血液型は最も身近な関連因子として用いられ、血液型によって性格が判るといったような研究論文とはいえないような多くの書物を目にする。しかしながら、メンデルの法則に従って親から子供へと正確に遺伝する血液型と気質や性格との関連性には信頼すべき科学的証拠は存在しない。血液型が親から子供へと正確に遺伝する事実と、血液型と気質が関連しているという証拠のない仮設が混同されて、気質や性格が遺伝するといったようなことが巷間に関心をよび起しているのであろう。

結局、ヒトの気質はごく一部分が遺伝するかもしれないが、大部分は生後獲得され、しかもそれを土台として成人における性格や人格などが構築されていくと考えざるをえない。

ヒューマンスキルは個人にとって他人とつき合いながら住み分けることができるようにする対人関係能力として、組織や社会の中での生活に役立たせるために大切なことであるが、全人的な成長・完成を目指すためには持続的に努力して勉学し、向上しつつ獲得する以外にはない。ヒューマンスキルにおいては先祖や親からの資質を当てにするわけにはいかないのである。